

「夢は国税調査官!!」

これは、最近の我が家で飛び交っているワードです。国税調査官とは、納税者から提出された確定申告書に基づき、申告、納税が適正に行われたか調査を行う人のことです。国税庁の令和五年度査察では、脱税総額が約 120 億円であり、ピークの昭和六三年度は約 714 億という高額であったことに驚愕しました。

僕の姉は、現在高校三年生で大学受験を控えています。その姉が将来就きたい職業が、この国税調査官です。その姉の夢は、高校二年生の時に一日税務署長という貴重な経験をしたことでより一層強くなったそうです。

姉は、0歳からひどいアトピーに悩まされ、十五歳から高額な自己注射を二週間に一度打っています。医療費は三か月分で約三十七万、年間で百四十万かかる計算になります。それを、一般家庭から捻出するのは難しいですが、健康保険と乳幼児等医療費助成制度で自己負担なく治療ができています。この治療のおかげで姉は明るくなり、その人生は大きく変わりました。

姉は税金で自分が救われたように、今後高額な治療を受ける人、今から教育を受ける子供たちの将来のために、国税調査官という職業に就き、脱税を許さず国民全員が公平で正しい納税をすすめていくことで、自分が受けた感謝を社会にお返ししていきたいと思っているそうです。

そんな姉の影響で僕自身も税金について勉強しました。そして、自分たちが受けている教育の小・中学校の校舎や教科書、先生の人件費、自身の治療も税金からの恩恵を受けていることを知り、収入や社会的背景に左右されることなく、誰もが医療や教育を平等に受けられるようにする社会をつくる「根幹」が税金なんだと知りました。

今、日本では少子高齢化が進み、高齢者の年金や医療費など社会保障の費用が増え、それを支える労働人口が減少している現状があります。高齢者に対する現役世代の人数が減っていくにつれて、現役世代への税負担が増えることは容易に予想できます。税収が減れば、医療費負担額の増大や公共サービスの縮小、年金額の減少など社会の根幹がくずれてしまいます。

今後増税という未来は、社会にとって必然なことなのかもしれません。増税に対して否定的な意見が多いですが、みんなが支払っている税は、自分自身の生活や教育などに還元され、世の中のどこかで必ず誰かの役に立ち、社会を発展させ生活を豊かにしていると分かれば増税への見方が変わるのではないのでしょうか。

将来、僕も納税者になります。中学生の今から税について関心をもって学ぶことで、自分たちが支払う税が何に使われ、社会に役立っているのか理解していきたいです。